

2025年度 研究成果報告書

所属機関名	日本大学
申請者氏名	市野 亮太
研究課題名	コミュニティ・スクール導入による地域づくりへの効果と可能性

【研究の概要】

本研究は、学校統廃合を契機としてコミュニティ・スクールが導入された京都府南丹市美山地域を対象に、学校と地域の関係がどのように再構築され、地域活動にいかなる変化が生じたのかを明らかにすることを目的とした。旧五小学校区の地域活動、統合校である美山小学校の学校運営協議会、地域学校協働活動の資料を収集し、学校関係者及び地域住民への聞き取り調査を実施した。分析に当たっては、統廃合前から続く活動の「継続」、統合後の条件に応じた「変容」、学校区を越えて生み出された「発展」という視点を設定した。その結果、コミュニティ・スクールは、旧小学校区ごとの文化やつながりを単に統合する仕組みではなく、各地域の代表性を確保しながら、美山地域全体で子どもの育ちを支える共通基盤を形成する仕組みとして機能していることが明らかになった。旧地域の代表者が学校運営協議会に参画する構成、住民と教職員が課題や目標を共有する熟議、地域資源を生かした「美山学」等の教育活動が、地域間の心理的距離を緩和し、協働を生み出す契機となっていた。担い手の固定化や地域間の温度差も確認され、持続的な運営には調整役と対話の継続が重要と示された。

【研究の内容及び成果の詳細】

1. 研究内容及び成果（本研究によって得られた新知見、成果等）

本研究では、まず南丹市の学校再編に関する行政資料、美山小学校の開校及びコミュニティ・スクール導入に関する資料、学校運営協議会の記録、地域学校協働活動や旧小学校区の行事に関する資料を収集し、統廃合前後の経過を整理した。その上で、学校関係者、地域連携を担う関係者、地域住民への聞き取り調査を行い、各人が学校統廃合とコミュニティ・スクールの導入をどのように受け止め、どのような形で学校や地域活動に関与してきたのかを把握した。得られた資料と語りは、「継続」「変容」「発展」の三つの観点から整理し、旧五小学校区と美山地域全体という二つの空間的単位の関係に着目して分析した。

第一の成果は、学校統廃合によって旧小学校区を基盤とする地域のつながりが一律に失われたわけではなく、地域行事、住民組織、旧校舎への愛着などを通して、各地域のまとまりが引き続き維持されていたことを明らかにした点である。他方で、児童数の減少や担い手の高齢化、統合校までの距離の拡大により、従来と同じ形で活動を継続することは困難となっていた。すなわち、統廃合後の地域活動は、単純な「存続」か「消滅」かでは捉えられず、活動の目的、担い手、実施範囲を組み替えながら継続していることが確認された。

第二の成果は、学校運営協議会に旧五地域の代表者が参画する仕組みが、統廃合後も各地域の意見や事情を学校運営に反映させる制度的な回路として機能していることを示した点である。旧小学校区の代表性を残すことは、地域間の利害を並列的に調整するだけではなく、それぞれの地域が蓄積してきた経験や資源を美山地域全体の教育課題へと結び直す働きを有していた。コミュニティ・スクールは、旧地域を解消して一つの新しい地域に置き換える制度ではなく、旧地域の固有性を承認しながら、地域全体として共有可能な目標を形成する場であるという新たな知見が得られた。

第三の成果は、熟議とコーディネート的重要性を具体的に明らかにした点である。学校運営協議会等における対話は、学校側の要望を地域に伝える一方向的なものではなく、住民が地域の課題や子どもへの願いを言語化し、教職員と共有する過程となっていた。特に、地域コーディネーターが学校と地域、さらに旧地域間の考え方や活動条件の違いを翻訳・調整することで、個別の要望が「美山の子どもをどのように育てるか」という共通課題へと再構成されていた。また、児童が熟議に参加する機会が設けられたことにより、大人が子どものために協議する段階から、子どもの意見を踏まえて地域の教育活動を構想する段階への変化も確認できた。

第四の成果は、「美山学」に位置づくホームステイや旧校舎を活用したサテライト教室等が、統廃合によって希薄化し得る旧地域との接点を教育活動として再編していることを示した点である。これらの活動は、地域文化を保存・伝達するだけでなく、児童が異なる旧小学校区を訪れ、住民と関わり、それぞれの地域資源を美山全体の学びとして捉え直す機会を生み出していた。したがって、コミュニティ・スクールの効果は、学校への住民参加の増加のみで測るべきではなく、地域資源の再評価、地域間交流、住民の役割の再発見を通して、地域の主体性を高める過程として把握する必要がある。

以上から、本研究は、統廃合後のコミュニティ・スクールを、学校と地域の間を維持するための制度ではなく、旧小学校区に蓄積された関係・資源・記憶を、美山地域全体の教育と地域づくりへ接続する「再編の基盤」として位置づけた。一方で、協議会委員や活動の担い手の固定化、地域ごとの関与の差、特定の調整役への負担集中、教職員の異動による関係の継承などの課題も確認された。研究成果の一部は学会報告に反映し、現在、論文として体系的に取りまとめている。

2. 今後の研究の見通し

今後は、本研究で把握した美山地域の特徴をさらに精緻化するとともに、得られた知見の一般化可能性と実践的意義を検討する。

第一に、旧五小学校区ごとの経験の違いをより丁寧に捉えるため、聞き取り調査の対象を広げる。これまでの調査から、学校統廃合やコミュニティ・スクールに対する受け止め方は、統合前の学校規模、地域行事と学校との結びつき、統合校までの距離、地域組織の状況などによって異なることが示唆されている。今後は、学校運営協議会委員や地域コーディネーターに加え、地域活動の担い手、保護者、旧小学校の関係者、行政担当者等への聞き取りを進め、制度の中心に関わる者だけでなく、参加が限定的な住民や活動から距離を置く住民の認識も含めて分析する。これにより、コミュニティ・スクールが地域全体にどの程度浸透しているのか、参加機会や発言力に偏りがないかを検証したい。

第二に、コミュニティ・スクール導入後の変化を時間軸に沿って明らかにする。導入初期には、旧五地域の意見を調整し、統合校と地域との関係を安定させることが重視されていたが、その後、熟議の蓄積や「美山学」の展開、児童参加の導入等を通して、協働の目的と方法が変化してきたと考えられる。今後は、学校運営協議会の議題、委員構成、地域学校協働活動の内容、参加者の語りを年度ごとに整理し、制度の導入、定着、発展という各段階において、どのような課題が生じ、どのような対応によって乗り越えられたのかを分析する。特に、新型コロナウイルス感染症による活動中断後に、熟議や地域活動がどのように再開・再構成されたのかを検討することは、協働体制の持続性を考える上で重要な課題である。

第三に、本研究で見いだした地域のエンパワメントの過程を理論的に整理する。現段階では、旧地域の代表者が意見を表明できること、住民の知識や経験が教育活動に位置づけられること、地域間の対話を通して共通目標が形成されること、住民が新たな役割を担うことが、地域の主体性を高める主要な要素として確認されている。今後は、これらを「代表性の保障」「地域資源の承認」「対話による意味形成」「協働活動への展開」という連続的な過程として整理し、コ

コミュニティ・スクールが地域住民の参加意識や自己効力感に与える影響を検討する。同時に、参加者の固定化や調整役への依存が、かえって新規参加を阻む可能性にも留意し、エンパワメントを促進する条件と制約の双方を明らかにする。

第四に、美山地域の事例を、学校統廃合後にコミュニティ・スクールを導入した他地域と比較する。人口規模、地理的条件、旧学区の数、地域組織の構成、コーディネーターの配置方法等が異なる事例を選定し、旧地域の代表性をどのように制度化しているか、学区を越えた活動をどのように組織しているか、学校と地域の間を誰が調整しているかを比較する。比較研究を通して、美山地域固有の条件と、中山間地域や人口減少地域に共通する条件を区別し、統廃合後の学校・地域関係を再構築するための分析枠組みを提示したい。

研究成果については、収集資料と聞き取りデータの追加分析を進め、学会発表及び査読論文として公表する。さらに、南丹市、美山小学校、調査協力者に対して成果を還元するため、研究報告書の送付や意見交換の機会を設けたい。学術的成果の公表だけでなく、地域側が自らの取組を振り返り、次の担い手育成や活動改善に活用できる形で結果を共有することを重視する。最終的には、学校統廃合を地域の衰退要因としてのみ捉えるのではなく、旧地域の蓄積を尊重しつつ新たな協働圏を形成する契機へと転換するための制度設計とコーディネート の在り方を提示することを目指す。

3. 本年度の学会発表・論文、刊行物・著書名等（今後、発表等を予定しているものも含む。）

【学会発表（予定）】

・市野亮太「学校統廃合後の学校・地域関係の再構築におけるコミュニティ・スクールの機能」日本大学教育学会秋季学術研究発表会

【論文（予定）】

・本助成研究によって得られた調査結果をもとに、学校統廃合後の地域において、学校運営協議会における熟議及び地域学校協働活動が、旧小学校区間の関係や地域意識の再構築に果たす役割について論文を執筆している。2026年度中に学術雑誌への投稿を予定している。

・学校と地域の協働を支えるコーディネート機能について、美山小学校を含む複数事例の比較分析を進めている。分析結果を研究論文として取りまとめ、2026年度中に学術雑誌への投稿を予定している。